

## 大聖院: 摩尼殿

摩尼殿は大聖院境内の中央部にそびえる華美な建造物です。ここでは「弥山の守護神」と呼ばれることもある神々「三鬼大権現」を祀っています。「鬼」とは神聖な性質をもつとされているオーガ (ogre) のような存在で、一方の「権現」とは神道の神に姿を変えて現れた仏を指します。三鬼大権現に対する信仰は宮島独自のもので、古代の民間信仰、神道、仏教 (現在は独立したものとして考えられている) が 1000 年以上にわたってどのように不可分に結びついてきたかのヒントと言えます。この神々が正式に祀られている場所は弥山の頂上にある三鬼堂ですが、摩尼殿は本殿まで登ることのできない人々のために、代わりとなる祈りの場を提供しています。

この建造物は大聖院の中でも特に新しいものの一つです。1976 年に権現造という特徴的な様式で建築されました。権現造では、拝殿 (祈る場所) と本殿 (主要な聖域) が共に一つの屋根のもと、狭い回廊によってつながっているため、建物がアルファベットの「H」に似た形になります。入り口は湾曲した破風と、龍を始めとした想像上の動物が複雑に彫られている木像が特徴的です。建物内に入った参拝者は急な階段を登って 2 階に行くことができ、そこから海に向けて境内全体を見渡せます。ただし、祈りの儀式が執り行われているときは入るのを控えた方がよいでしょう。